

多様性



『読書バリアフリー
見つけよう！自分にあった
読書のカタチ』

読書工房/編著
国土社

さまざまな人が、自分にあった方法で読めるように工夫された本を「バリアフリー図書」といいます。読みやすさや、わかりやすさは人それぞれ。あなたにあう本を見つけてみませんか。



『ぼくらの
サブウェイ・ベイビー』

ピーター・マキューリオ/作
レオ・エスピノーサ/絵
北丸雄二/訳
サザンブックス社



ニューヨークの地下鉄でダニーが見つけたのは、生まれたばかりの赤ちゃんだった。ダニーとパートナーのピートは、その赤ちゃんの親になることを決意する。実話をもとにした家族の物語。



『わたしの
アメリカンドリーム』

ケリー・ヤン/作
田中奈津子/訳
講談社



ミア一家は希望をもって、中国からアメリカへやってきた。でもモーターの管理人の仕事をやっと見つけたのに、そのモーターが売りに出されることになってしまった。そこでミアは、あることを実行する。

発行 足立区立中央図書館
TEL 03-5813-3740

ちょうせん 挑戦



『起業家フェリックス
は12歳』

アンドリュー・ノリス/著
千葉茂樹/訳
あすなろ書房



フェリックスは親友が描いたイラストをプリントして、母さんへのバースデーカードを作りました。そのカードがロコミで評判となり、どんどん売れて、オンラインショップを開くまでになりました。

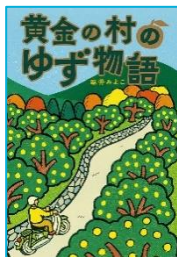


『立てないキリンの
赤ちゃんをすくえ
安佐動物公園の挑戦』

佐藤真澄/作
静山社



広島市安佐動物公園で、キリンの赤ちゃんが生まれましたが、足に異常が見つかります。このままでは死んでしまう赤ちゃんの命を救うため、飼育員たちはあきらめずに治療を行います。



『黄金の村のゆず物語』

麻井みよこ/著
ポプラ社



農業普及指導技師の白木さんは、木頭村の農家の状況を見て、何か価値の高い作物はないか探し始めます。その時、ぐうぜん見つけたのが、村人たちが見向きもしなかったゆずでした。



知ると分かる。
すると変わる。
SDGs MODEL ADACHI

小学 5・6年生
あつまれ あましろい本
足立区立図書館

新たな発見や楽しさに出会おう！

ふだんは読まないジャンルの本にチャレンジすると、
きっと新たな発見や楽しさに出会えるよ！



ちょうせん 挑戦

『宇宙食になったサバ缶』

小坂康之・別司芳子/著
小学館

「ここでつくったサバ缶を、宇宙に飛ばせるんちゃう？」生徒の一言から、宇宙食サバ缶への挑戦がはじまった。若狭高校のサバ缶作りは、先輩から後輩へと引き継がれ、ついに宇宙へ飛び立った。



→ あだち電子図書館で読める本



→ 読みやすい本

あだち電子図書館
詳細はコチラ





居場所



『じいちゃんの山小屋』

佐和みずえ/作
カワイ/絵
小峰書店

父さんと大げんかした航太は、四国のじいちゃんの家でくらすことになった。電気もトイレもない山小屋での生活に、来たことを後悔していたが、だんだんと不便な生活が楽しくなってくる。



『ラベンダーとソプラノ』

額賀 淳/作
いつか/絵
岩崎書店

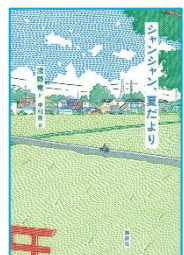
合唱クラブに入っている真子。最近では練習が緊張感に包まれ、楽しく歌えなくなっていた。そんなとき朔に連れていかれたのは、商店街の人たちが自由に歌う「半地下合唱団」だった。



『金曜日のヤマアラシ』

蓼内 明子/著
アリス館

父のさくちゃんと2人で暮らしているウタ。いつもヤマアラシのようにトゲトゲしている転校生の話をする、彼のことが気になったさくちゃんは、ある疑問を抱いた。



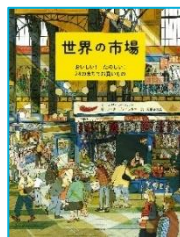
『シャンシャン、夏だより』

浅野 竜/作
中村 隆/絵
講談社

ノブは、夏休みに、クマゼミさがしをとおして、ちとせと関わるようになった。親しくなるにつれ、ちとせがクラスでイライラしているのには、あるつらい理由があることを知るのだった。



世界



『世界の市場』 おいしい! たのしい! 24のまちでお買い物!』

マリア・パール/文
アン・デ・スツカヤ/絵
岡根谷実里/訳
河出書房新社



12か国の市場をめぐる旅をしよう! 市場をのぞくと、その国の様子がよく分かります。おすすめのおやつや知っている便利な言葉など、情報がもりだくさんです。



『世界遺産を救え!』

レイ・ホーキンソン/著
武井 摩利/訳
創元社

世界各地には重要な遺跡や文化財がありますが、国土の開発や自然災害によって、危機にさらされているものがあります。「世界遺産」を守るためには、どんなことが必要でしょうか。

真実



『カメラにうつらなかった真実』 3人の写真家が見た 日系人収容所』

エリザベス・バートリッジ/文
ローレン・タマキ/絵
松波佐知子/訳 徳間書店

1941年、日本軍が真珠湾を爆撃すると、アメリカの日系人たちは強制収容所に入れられてしまいました。そこで生活を、立場の違う3人の写真家はどのように写したのでしょうか。



『彼の名はウォルター』

エミリー・ロッダ/著
さくまゆみこ/訳
あすなろ書房

遠足の途中でバスが故障し、近くの屋敷でおかえを待つことになった先生とコリンたち。不気味に感じる屋敷で見つけたのは、『彼の名はウォルター』と書かれた本だった。

好き



『どすこい!』

森 楚こみち/作
佐藤 真紀子/絵
国土社

小6の凡と健太。相撲大会で優勝するために、元力士のじいさんのもとへ行くが、ひとことふたこと言うだけで、教えてくれない。勝ちたかったら、自分で考えろと言う。



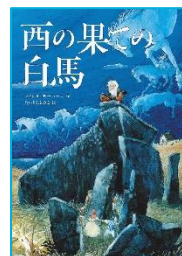
『リメイク!』

あさだりん/作
いつか/絵
フレール館

手芸クラブのクラブ長をおしつけられた由希。ある日、弟が手芸をバカにするのを聞いてしまう。「手芸クラブすごい」って言われるものをつくって見返したいけど、なにをつくれればいいのだろう。



不思議



『西の果ての白馬』

マイケル・モーパ・ゴ/作
ないとうふみこ/訳
徳間書店

イギリスの西の果てにある小さな村。そこには、幽霊やノッカーと呼ばれる小鬼がいて、ふしぎなことがたくさん起こってきた。同じ村を舞台に描かれた、5つの短編を収録。



『ブラックホールってなんだろう?』

嶺 重慎/文
倉部 今日子/絵
福音館書店

宇宙にある、謎につつまれた天体。直径50kmくらいのもので、なんでもすいこんでしまいます。ブラックホールはどのようなしくみで、ものをすいこむのでしょうか。

